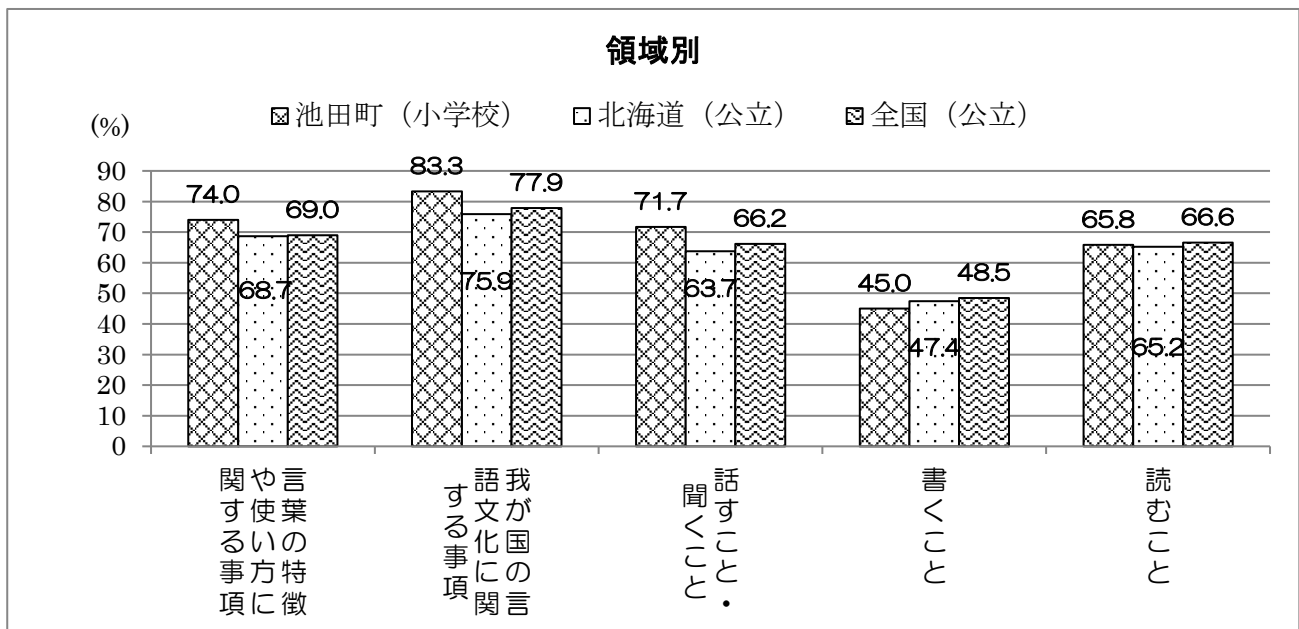
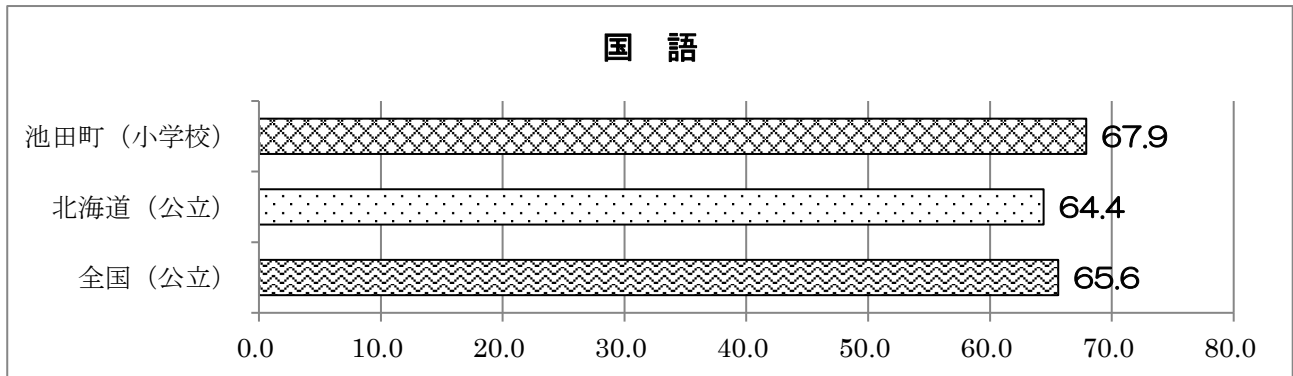


## 令和4年度 全国学力・学習状況調査結果等について (小学校)

## 1 国語

(1) 調査結果 平均正答率 (%) : 池田町 67.9 (全道 64.4 全国 65.6)



全国の正答率と比較すると国語は2.3(昨年 国語0.4↓)ポイント上回り、調査開始以来、初めて全国より高い正答率となった。領域別に見ると本町の子どもたちは、2事項、1領域「話すこと・聞くこと」において全国を上回り、「書くこと」の領域に最も課題が見られた。

(2) 成果と課題 (□望ましい ■改善を要する ★無解答率が高い (↑↓) 全国との±の差)

□「言葉の特徴や使い方に関する事項」の「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」ことが全国を上回っている。

〔【文章2】の中の\_\_部イを、漢字を使って書き直す(はんせい)。問題3三イ 83.3% 24.6↑〕

□「読むこと」の領域の「登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える」ことが全国を上回っている。

〔「ぼく」の気持ちの説明として適切なものを選択する。問題2-(1) 86.7% 18.3↑〕

□「言葉の特徴や使い方に関する事項」の「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」ことが全国を上回っている。

〔【文章2】の中の\_\_部アを、漢字を使って書き直す(ろくが)。問題3三ア 73.3% 8.1↑〕

- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」の「言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える」ことに課題がある。  
 〔【話し合いの様子の一部】における谷原さんや中村さんの発言の理由として適切なものを選択する。問題1二 53.3% 15.5↓〕
- 「読むこと」の領域の「人物像や物語の全体像を具体的に想像する」ことに課題がある。  
 〔物語から伝わってくることを考え、【森田さんの文章】のAに入る内容を書く。問題2二 53.3% 15.0↓〕
- 「読むこと」の領域の「表現の効果を考える」ことに課題がある。  
 〔【山村さんの文章】のBに入る内容として適切なものを選択する。問題2三 50.0% 9.2↓〕
- 「書くこと」の領域の「文書全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える」ことに課題がある。  
 〔【文章2】の□の部分、どのようなことに気を付けて書いたのか、適切なものを選択する。問題3一 50.0% 9.2↓〕

★無解答率が最も高くなった問題は、「書くこと」の領域の「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける。(問題3二)」である。【本町 26.7% 全国 14.5%】

### (3) 課題解決に向けた学習指導に当たって

#### ■問題1二 「言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉えることができるかどうかをみる設問」

◇ 本設問では、話し手の発言の内容を適切に捉えた上で、「確かに」、「なるほど」と発言して、友達の意見のよさを伝え、認め合いながら話し合いを進めることで、話し手と聞き手の間に良好な関係を築きながら、自分の考えを広げたりまとめたりしていくことが求められている。

学習指導に当たっては、話し手と聞き手の間に好ましい関係を築き、継続させる言葉の働きに気付くことができるように、振り返りの場面などで自分たちの話し合いの様子を確かめる活動を設定することが考えられる。

#### ■問題2二 「人物像や物語の全体像を具体的に想像することができるかどうかをみる設問」

◇ 本設問では、森田さんが物語を推薦する理由として、前向きな気持ちになることを挙げている。それは、「老人」に出会った「ぼく」を通して、物語全体から感じていることである。森田さんは、「ぼく」と「老人」との相互関係や「ぼく」の人物像を手掛かりにして、物語の全体像を具体的に想像して推薦する文章に書いている。

学習指導に当たっては、着目した叙述を複数取り上げ、そこから考えられることをノートやワークシートにまとめたり、考えたことを交流したりすることで物語の全体像を明確にすることが効果的である。

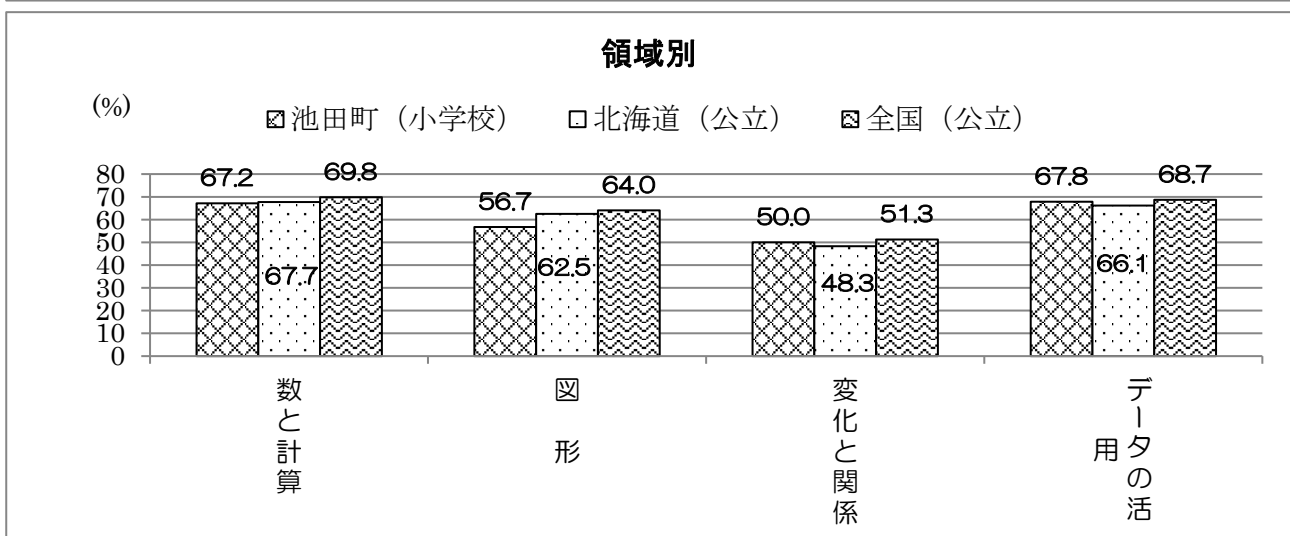
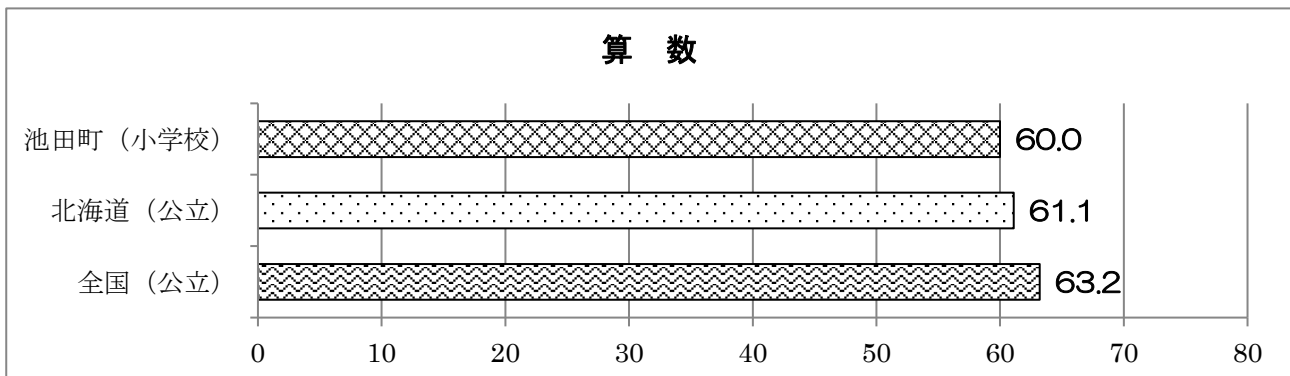
#### ★問題3二 「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるかどうかをみる設問」

☆ 本設問では、「六年生としてがんばりたいこと」を伝えることが目的であり、【伝え合いの様子の一部】において、島谷さんは、「私のがんばろうとしていることが伝わるかな」と川口さんに聞いている。また、【伝え合いの様子の一部】の川口さんのように、「最後の段落がいいね。なぜか」というと、～というように、よいところを具体的に言葉で表している。

学習指導に当たっては、伝え合う経験を積み重ねていくことで、自分の文章のよいところを見付けたり、それを言葉で表したりする指導が大切である。本設問のように、自分が書いた目的や意図を相手に伝えたり、感想や意見を具体的に伝え合ったりすることができるように指導すると効果的である。

## 2 算数

(1) 調査結果 平均正答率 (%) : 池田町 60.0 (全道 61.1 全国 63.2)



全国の正答率と比較すると算数は3.2(昨年 算数2.7↓)ポイント下回り、昨年より差がやや広がった。領域別に見ると本町の子どもたちは、「変化と関係」、「データの活用」の領域が全国とほぼ同水準であり、「図形」の領域に最も課題が見られた。

(2) 成果と課題 (□望ましい ■改善を要する ★無解答率が高い (↑↓) 全国との土の差)

□「変化と関係」の領域の「百分率で表された割合を分数で表すことができる」ことが全国を上回っている。

[果汁が25%含まれている飲み物の量を基にしたときの、果汁の量の割合を分数で表す。問題2(1) 93.3% 22.2↑]

□「数と計算」の領域の「二つの数の最小公倍数を求めることができる」ことが全国を上回っている。

[14と21の最小公倍数を求める。問題1(2) 80.0% 7.8↑]

□「数と計算」の領域の「示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる」ことが全国を上回っている。

[カップケーキ7個分の値段を1470÷3で求めることができるわけを書く。問題1(3) 83.3% 7.3↑]

■「変化と関係」の領域の「伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述できる」ことに課題がある。

[果汁が30%含まれている飲み物に果汁が180ml入っているときの、飲み物の量の求め方と答えを書く。問題2(4) 26.7% 21.3↓]

- 「図形」の領域の「図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解している」ことに課題がある。

[辺の長さや角の大きさに着目し、ひし形をかくことができるプログラムを選ぶ。問題4(3) 53.3% 13.2↓]

- 「図形」の領域の「図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解している」ことに課題がある。

[長方形のプログラムについて、向かい合う辺の長さを書く。問題4(2) 73.3% 9.9↓]

- ★無解答率が最も高くなった問題は、「数と計算」の領域の「加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを記述できる。(問題3(4))」である。

【本町 23.3% 全国 8.6%】

### (3) 課題解決に向けた学習指導に当たって

- 問題2(4)「伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる設問」

◇ 伴って変わる二つの数量を見だし、一方の数量に伴って他方の数量がどのように変化するかに着目して、未知の数量を求めることができるようにすることが重要である。その際、表に整理して、二つの数量の関係に着目できるようにすることが大切である。また、二つの数量から割合を求めることができるだけでなく、示された割合になる二つの数量を考えることができるようにすることも大切である。

指導に当たっては、例えば、本設問を用いて、伴って変わる二つの数量のデータを何組か集めて表に整理し、比例の関係を見いだす活動が考えられる。その際、一方の数量のみに着目するのではなく、二つの数量がどのように変わっているかに着目し、果汁の量が2倍、3倍、…になると、それに伴って飲み物の量も2倍、3倍、…になっているという比例の関係を捉え、未知の数量を求めることができるようにすることが大切である。

- 問題4(3)「図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解しているかどうかをみる設問」

◇ 図形を構成する要素やそれらの関係に着目し、ひし形の作図の仕方について、筋道を立てて考えることができるようにすることが重要である。

指導に当たっては、例えば、本設問のように、ひし形の意味や性質を基に、コンピュータを用いてひし形を作図する活動が考えられる。その際、正方形とひし形の同じところや違うところを考える場合は、辺の長さや角の大きさに着目できるようにすることが大切である。

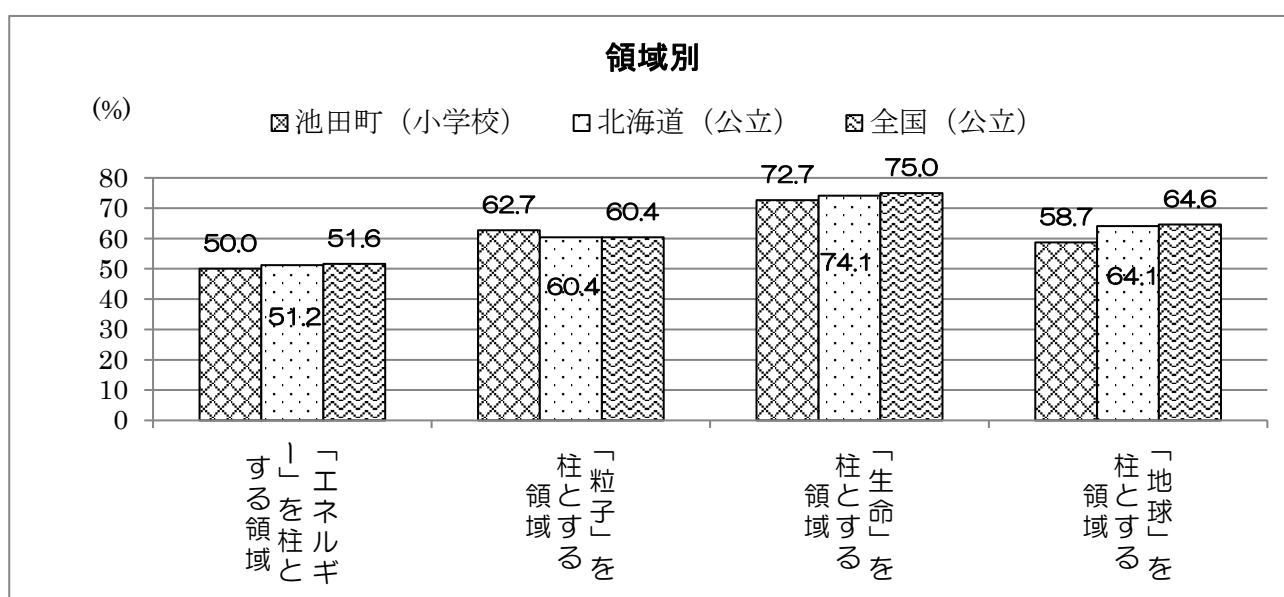
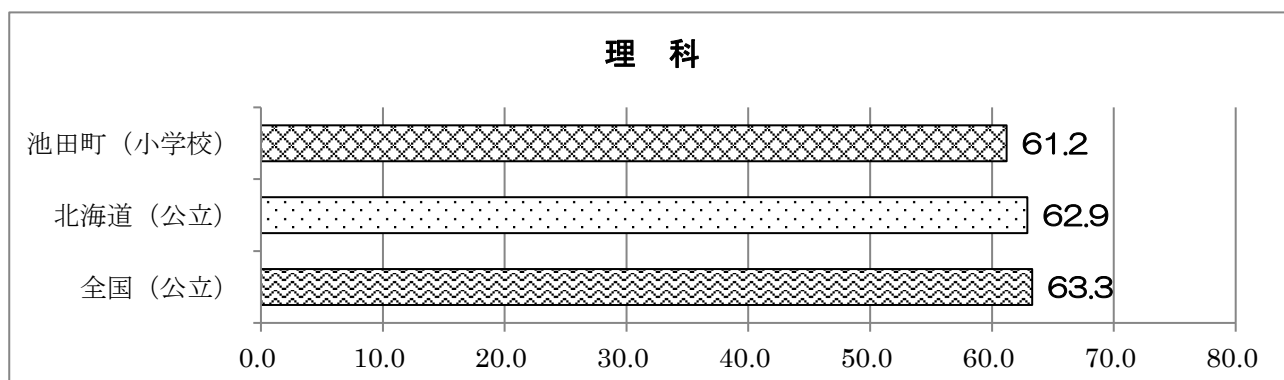
- ★問題3(4)「加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる設問」

☆ 日常生活の問題を解決するために、問題場面の数量の関係に着目し、数量の関係を簡潔に式で表すとともに、式を読み取ったり、正しく計算したりすることができるようにすることが重要である。

指導に当たっては、例えば、本設問を用いて、輪投げのポイント数の求め方を解釈し、加法と乗法の混合した式を用いて、他の遊びのポイント数を求める活動が考えられる。その際、 $10 \times 15 + 5 \times 4 = 170$  という式について、1年生と6年生の一人当たりのポイント数がそれぞれ10ポイントと5ポイントで、輪投げを希望している人数がそれぞれ15人と4人であることから、1年生のポイント数が $10 \times 15$ で求められることや、6年生のポイント数が $5 \times 4$ で求められることを読み取り、それらを足すことで輪投げのポイント数が求められることを読み取ることができるようにすることが大切である。

## 3 理科

(1) 調査結果 平均正答率(%)：池田町 61.2 (全道 62.9 全国 63.3)



全国の正答率と比較すると理科は2.1(前回 理科 11.5↓)ポイント下回ったが、前回(H30年)より、すべての領域において改善がみられた。領域別に見ると本町の子どもたちは、「粒子」を柱とする領域は全国の正答率を上回り、「地球」を柱とする領域に最も課題が見られた。

(2) 成果と課題 (□望ましい ■改善を要する ★無解答率が高い (↑↓) 全国との±の差)

□「粒子」を柱とする領域の「メスシリンダーという器具を理解している」ことが全国を上回っている。

[一定量の液体の体積を適切にはかり取る器具の名称を書く。問題2(1) 80.0% 12.2↑]

□「エネルギー」を柱とする領域の「問題に対するまとめを導きだすことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録している」ことが全国を上回っている。

[実験の結果から、問題の解決に必要な情報が取り出しやすく整理された記録を選ぶ。問題3(2) 83.3% 8.9↑]

□「粒子」を柱とする領域の「メスシリンダーの正しい扱い方を身に付けている」ことが全国を上回っている。

[水50mlをはかり取る際に、メスシリンダーに入れた水の量を正しく読み取り、さらにスポイトで加える水の量を選ぶ。問題2(2) 76.7% 6.7↑]

■「生命」を柱とする領域の「観察などで得た結果を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる」ことに課題がある。

[育ち方と主な食べ物の二次元の表から気付いたことを基に、昆虫の食べ物に関する問題を見い出して選ぶ。問題1(5) 50.0% 15.5↓]

- 「地球」を柱とする領域の「観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる」ことに課題がある。

[結果からいえることは、提示された結果のどこを分析したものなのかを選ぶ。問題4(3) 30.0% 15.5↓]

- 「地球」を柱とする領域の「観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる」ことに課題がある。

[冬の天気と気温の変化を基に、問題に対するまとめを選ぶ。問題4(1) 73.3% 9.0↓]

- ★無解答率が最も高くなった問題は、「地球」を柱とする領域の「観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる。(問題4(3))」である。  
【本町 16.7% 全国 6.5%】

### (3) 課題解決に向けた学習指導に当たって

- 問題1(5)「観察などで得た結果を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができるかどうかをみる設問」

◇ 観察、実験などの結果について、自分や他者の気付きを基に分析して、解釈し、問題を見い出すことができるようにするためには、それぞれの気付きを明確にし、差異点や共通点を基に自分の考えをもつことができるようにすることが重要である。

指導に当たっては、それぞれの気付きを明確にし、主に差異点や共通点を基に、問題を見いだす場面を設定することが大切である。例えば、モンシロチョウの卵を見つけ飼育しながら、「モンシロチョウはどのように育つのだろうか」という問題を解決した後、モンシロチョウの観察記録について他の学習や生活経験と比較しながら、「校庭には様々な昆虫がいることを学習したけれど、他の昆虫はどのように育つのだろうか」や「他の昆虫にも卵や蛹のときがあるのかな」といったことから、「昆虫はどのように育つのだろうか」という問題を見い出す学習活動が考えられる。

- 問題4(1)「観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができるかどうかをみる設問」

◇ 観察、実験などで得た結果について分析して、解釈し、より妥当な考えをつくりだすことができるようにするためには、問題を把握し、観察、実験などの結果と既習の内容や生活経験とを関連付けながら、結果の傾向を捉え、問題に正対した結論を導きだせるようにすることが重要である。

指導に当たっては、例えば、雲の様子と天気の関係について、気象衛星の雲画像やアメダスの雨量情報などを調べ、全国各地の雲の様子と天気の変化を、天気の変化は雲の量と関係があるという既習の内容や天気の変化は多様であるという生活経験と関連付けながら、天気はおよそ西から東に変化していくという問題に正対する結論を導きだす学習活動が考えられる。

- ★問題4(3)「観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができるかどうかをみる設問」

◇ ☆観察、実験などで得た結果について分析して、解釈し、より妥当な考えをつくりだすことができるようにするためには、提示された資料から数量、変化の大きさなどの特徴を読み取り、自分の考えを表現できるようにすることが重要である。

指導に当たっては、結果などから結論を導きだすために必要な数量、変化の大きさなどの特徴を見つけ、自分の考えをもち、それらの話し合う場面を設定することが大切である。例えば、1日の気温の変化のグラフから、天気の様子と気温の変化の大きい時間帯や小さい時間帯との関係について読み取り、天気と気温の変化との関わりについて話し合う学習活動が考えられる。